

伊達市第3次総合計画策定のための
市民・中学生アンケート調査結果

令和4年1月

伊 達 市

I 調査の概要

(1) 調査目的

本調査は、伊達市第3次総合計画（令和5年度～令和14年度）の策定にあたって、市への愛着度や今後の定住意向、今後のまちづくりの特色をはじめ、市民及び中学生の意識やニーズを把握し、計画づくりの基礎資料を得るために実施した。

(2) 調査対象及び調査方法、回収結果

項 目	市 民	中学生
調査対象	16 歳以上の市民	市内の中学2年生
配布数	3,000	461
抽出法	無作為抽出	（全数調査）
調査方法	郵送による配布・回収	中学校での配布・回収
調査時期	令和3年9月	令和3年9月
有効回収数	1,059	430
有効回収率	35.3%	93.3%

Ⅱ 調査結果

1 市への愛着度と定住意向などについて

(1) 市への愛着度

- “愛着を感じている” が 78.2%、“愛着を感じていない” が 5.4%。

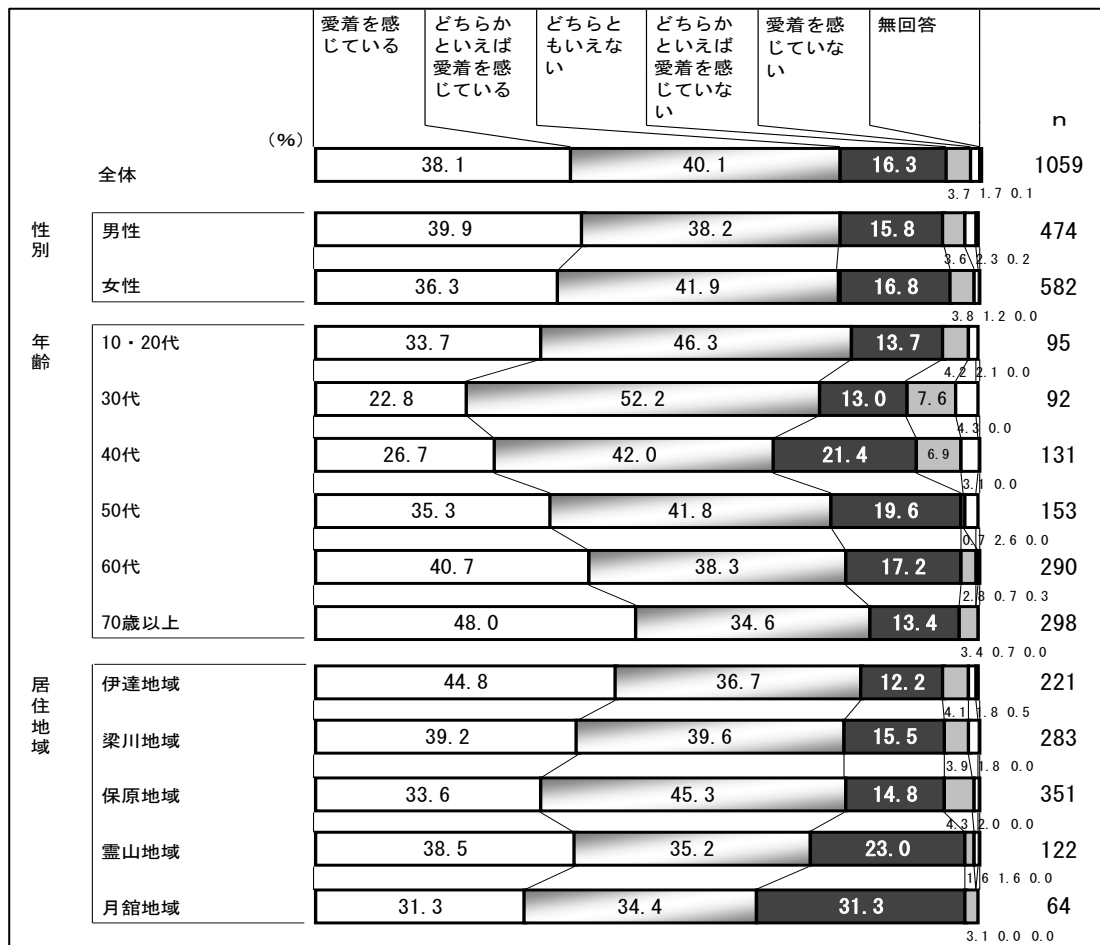
「どちらかといえば愛着を感じている」と「愛着を感じている」をあわせた“愛着を感じている”が 78.2%、「どちらかといえば愛着を感じていない」と「愛着を感じていない」をあわせた“愛着を感じていない”が 5.4%で、愛着度は高いといえる。

中学生アンケートの結果（“好きだ”が 71.1%、“好きではない”が 4.9%）と比較すると、“愛着を感じている（好きだ）”率は市民が約 7 ポイント高く、愛着度は市民の方がかなり高い（中学生の方がかなり低い）ことがうかがえる。

属性別で、“愛着を感じている”率をみると、年齢別では、40代で 7 割に満たず目立って低いこと、10・20代で 8 割と高く、若年層においても愛着度が高いことなどの特徴があげられる。

居住地域別では、伊達地域（81.5%）で最も高く、次いで保原地域（78.9%）、梁川地域（78.8%）、霊山地域（73.7%）、月舘地域（65.7%）の順で、伊達地域・保原地域・梁川地域と霊山地域・月舘地域ではかなりの差がみられる。[図表 1 参照]

図表 1 市への愛着度（全体・性別・年齢・居住地域）



(2) 今後の定住意向

- “住み続けたい” が 79.6%、“住みたくない” が 4.4%。

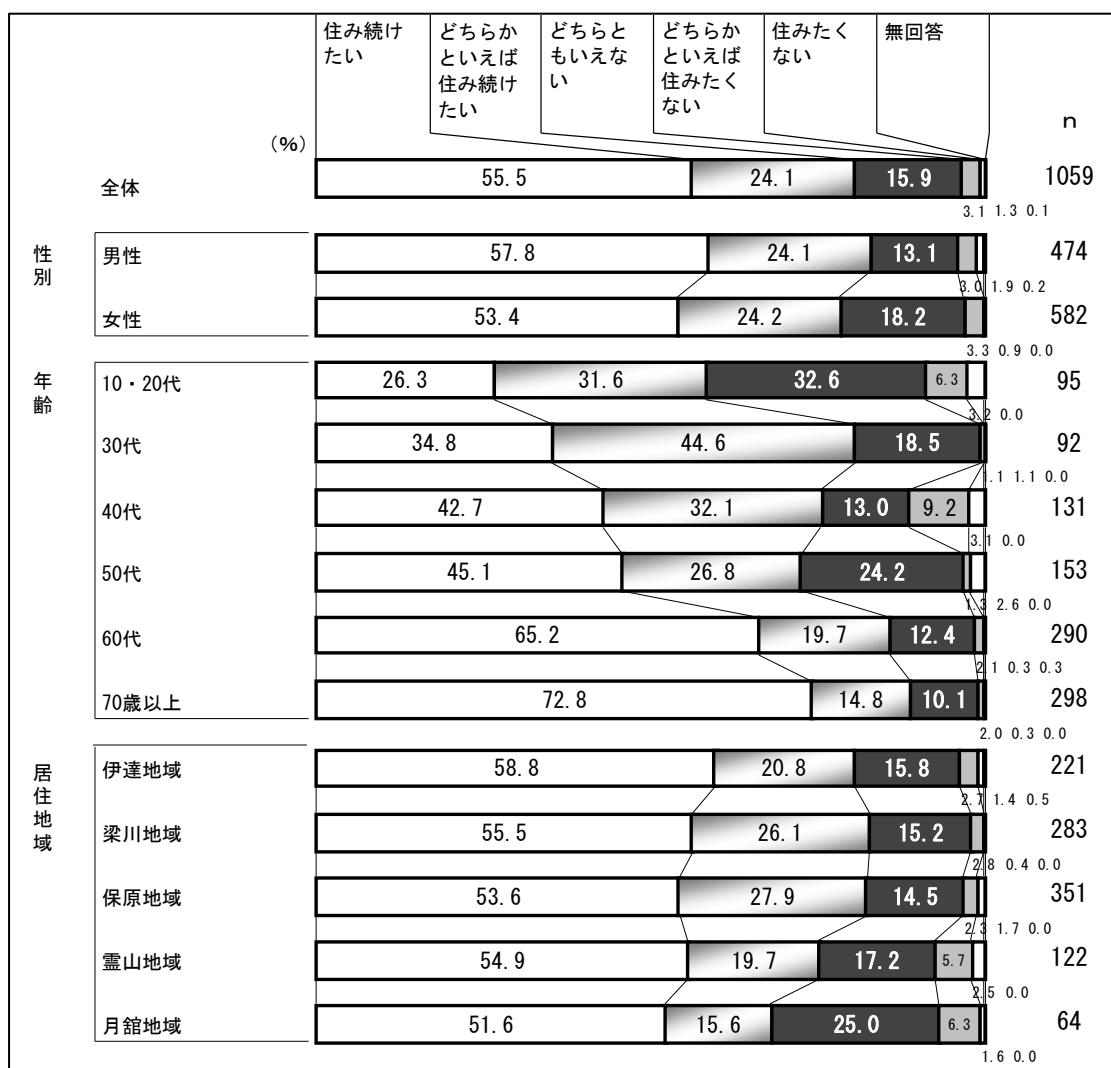
「住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」をあわせた“住み続けたい”が 79.6%、「どちらかといえば住みたくない」と「住みたくない」をあわせた“住みたくない”が 4.4%で、「市への愛着度」と同様に定住意向も強いといえる。

中学生アンケートの結果（“住み続けたい”が 27.7%、“住みたくない”が 18.4%）と比較すると、“住み続けたい”率は市民が約 52 ポイント高く、定住意向は市民の方が特に強い（中学生の方が特に弱い）ことがうかがえる。

属性別で“住み続けたい”率をみると、年齢別では、愛着度が 2 番目に高かった 10・20 代で 6 割に満たず目立って低いこと、40 代・50 代で 7 割強程度と比較的低いことなどの特徴があげられる。

居住地域別では、梁川地域（81.6%）で最も高く、次いでほぼ同率で保原地域（81.5%）、伊達地域（79.6%）、霊山地域（74.6%）、月舘地域（67.2%）の順で、「市への愛着度」と同様に、梁川地域・保原地域・伊達地域と霊山地域・月舘地域ではかなりの差がみられる。[図表 2 参照]

図表 2 今後の定住意向（全体・性別・年齢・居住地域）



(3) 市の魅力

- 「豊かな自然」が他を引き離して第1位。次いで「おいしい食べ物」、「買物の利便性」、「住みやすい住宅地」、「道路・交通の利便性」、「人情味や地域の連帯感」の順。

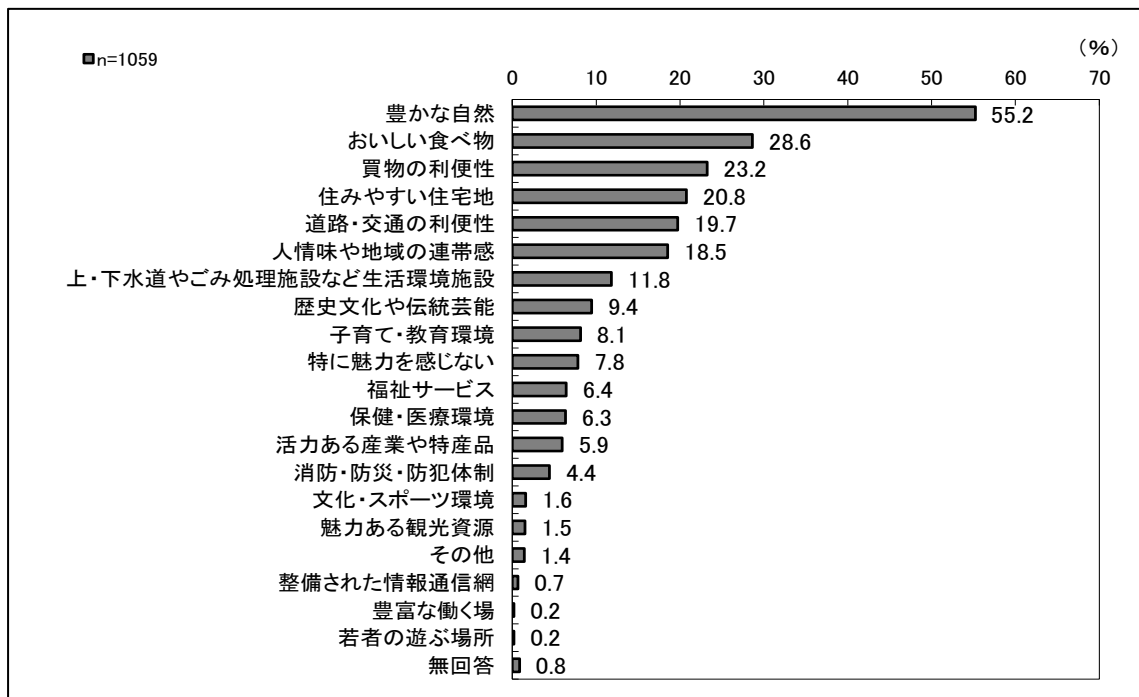
「豊かな自然」が他を引き離して第1位、「おいしい食べ物」が第2位、「買物の利便性」が第3位、続いて「住みやすい住宅地」、「道路・交通の利便性」、「人情味や地域の連帯感」の順で、自然の豊かさをはじめ、食べ物や利便性、住宅地、人情味を市の魅力と感じている人が多くなっている。

令和2年度アンケートの結果（「豊かな自然」、「買物の利便性」、「道路・交通の利便性」、「仕事や家族の都合」、「おいしい食べ物」の順）と比較すると、今回の選択肢にはない「仕事や家族の都合」を除くと、上位5位は同様であり、大きな変化はみられない。

中学生アンケートの結果（「豊かな自然」、「人のやさしさ」、「おいしい食べ物」、「住みやすい住宅地」、「歴史的なもの」の順）と比較すると、「豊かな自然」が第1位、「おいしい食べ物」が第2位あるいは第3位であることに変わりはないが、市民では利便性、中学生では人のやさしさや歴史的なものがあげられており、やや違いがみられる。

属性別でみると、ほとんどの属性で市全体と同様に「豊かな自然」が第1位、「おいしい食べ物」が第2位となっているが、伊達地域では「道路・交通の利便性」が第1位となっているほか、40代では「住みやすい住宅地」、70歳以上及び保原地域では「買物の利便性」、霊山地域・月舘地域では「人情味や地域の連帯感」が第2位となっており、特に地域によって若干の違いがみられる。[図表3参照]

図表3 市の魅力（全体／複数回答）



(4) 市に不足していること

- 「豊富な働く場」が第1位。次いで「若者の遊ぶ場所」、「魅力ある観光資源」、「買物の利便性」、「道路・交通の利便性」の順。

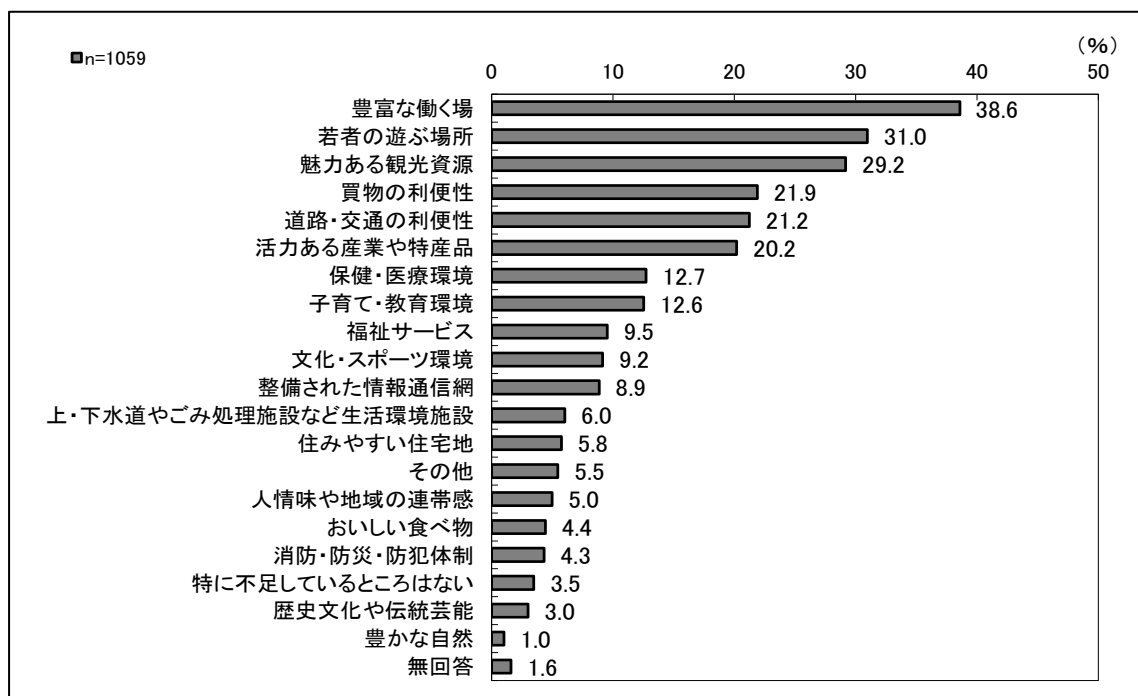
「豊富な働く場」が第1位、「若者の遊ぶ場所」が第2位、「魅力ある観光資源」が第3位で、これらは他をやや引き離して代表的な回答となっており、就労の場をはじめ、若者の遊び場や観光資源が不足していると考える人が多くなっている。

令和2年度アンケートの結果（「道路・交通の利便性」、「買物などの利便性」、「豊富な働く場」、「若者の遊ぶ場所」、「活力ある産業や特産品」の順）と比較すると、令和2年度の選択肢にはなかった「魅力ある観光資源」を除くと、上位5位の項目は同じであるが、令和2年度では利便性、今回は就労の場や若者の遊び場が上位回答となっており、やや違いがみられる。

中学生アンケートの結果（「若者の遊ぶ場所」、「多くの人を訪れる場所」、「文化・スポーツ施設」、「インターネットの利便性」、「買物の利便性」の順）と比較すると、市民・中学生ともに若者の遊び場や観光資源が上位回答となっているが、市民では就労の場、中学生では若者の遊び場の不足を指摘する人が特に多くなっている。

属性別でみると、ほとんどの属性で市全体と同様に「豊富な働く場」が第1位となっているが、10・20代～40代及び伊達地域では「若者の遊ぶ場所」、月舘地域では「買物の利便性」が第1位となっており、年齢・地域によって最も不足していると考えられるものに違いがみられる。[図表4参照]

図表4 市に不足していること（全体／複数回答）



(5) 市の特徴と課題がまちづくりに反映されているか

- “そう思う” が 25.9%、“そう思わない” が 52.6%。

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた“そう思う”が 25.9%、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」をあわせた“そう思わない”が 52.6%となっている。

令和2年度アンケートの結果(“そう思う”が 27.9%、“そう思わない”が 35.0%)と比較すると、“そう思う”という率は大きく変わらないが、“そう思わない”という率は約 18 ポイント上昇し、市全体や各地域の特徴と課題を反映したまちづくりに関する評価は厳しくなっている。

属性別で“そう思わない”率をみると、性別では、男性が女性を約 15 ポイント上回り、男性の評価が特に厳しいものとなっている。

年齢別では、他の年齢層に比べ、50代と60代の評価が厳しくなっている。

居住地域別では、霊山地域(63.9%)で最も高く、次いで月舘地域(61.0%)、梁川地域(54.8%)、保原地域(49.9%)、伊達地域(46.1%)の順で、「市への愛着度」や「今後の定住意向」で比較的低い(弱い)傾向にあった霊山地域と月舘地域の2地域の評価が特に厳しくなっている。[図表5参照]

図表5 市の特徴と課題がまちづくりに反映されているか(全体・性別・年齢・居住地域)

		そう思う	どちらか といえば そう思う	どちらか といえば そう思わ ない	そう思わ ない	わから ない	無回答	n
(%)								
性 別	全体	23.0	34.4	18.2	21.1			1059
	男性	20.0	39.5	21.1	16.0			474
	女性	25.6	30.1	16.0	25.1			582
年 齢	10・20代	25.3	21.1	13.7	35.8			95
	30代	28.3	26.1	18.5	26.1			92
	40代	22.1	33.6	16.0	26.7			131
	50代	19.6	39.2	21.6	17.6			153
	60代	18.3	36.6	22.8	17.6			290
	70歳以上	27.5	36.9	14.4	17.4			298
居 住 地 域	伊達地域	29.4	31.2	14.9	20.4			221
	梁川地域	20.5	35.0	19.8	21.2			283
	保原地域	22.2	32.2	17.7	25.1			351
	霊山地域	19.7	39.3	24.6	13.1			122
	月舘地域	21.9	46.9	14.1	15.6			64

2 市の現状と今後の取り組みについて

(1) 市の各環境に関する満足度

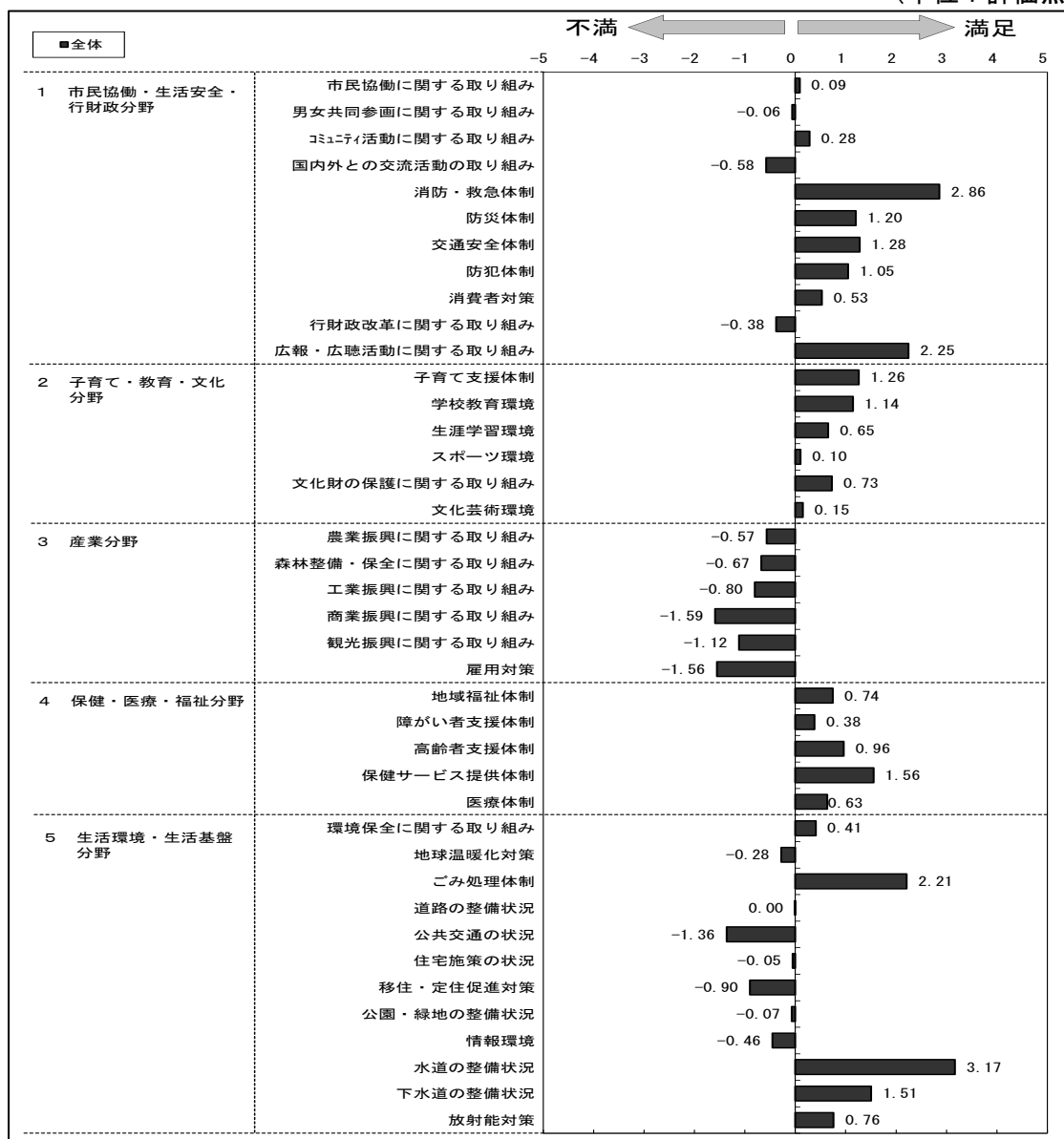
- 満足度が最も高いのは「水道の整備状況」。次いで「消防・救急体制」、「広報・広聴活動に関する取り組み」の順。
- 満足度が最も低いのは「商業振興に関する取り組み」。次いで「雇用対策」、「公共交通の状況」の順。

満足度が最も高いのは「水道の整備状況」で、次いで「消防・救急体制」、「広報・広聴活動に関する取り組み」などとなっている。一方、満足度が最も低いのは「商業振興に関する取り組み」で、次いで「雇用対策」、「公共交通の状況」などとなっている。

全体的にみると、市民協働・生活安全・行財政分野の中の生活安全と広報・広聴活動に関する項目、子育て・教育・文化分野の項目全般、保健・医療・福祉分野の項目全般、生活環境・生活基盤分野の中の水道・下水道・ごみ処理に関する項目の満足度が高く、産業分野の項目全般、生活環境・生活基盤分野の中の公共交通・移住・定住・情報環境に関する項目の満足度が低くなっている。[図表6参照]

図表6 市の各環境に関する満足度（全体）

（単位：評価点）



(2) 市の各環境に関する重要度

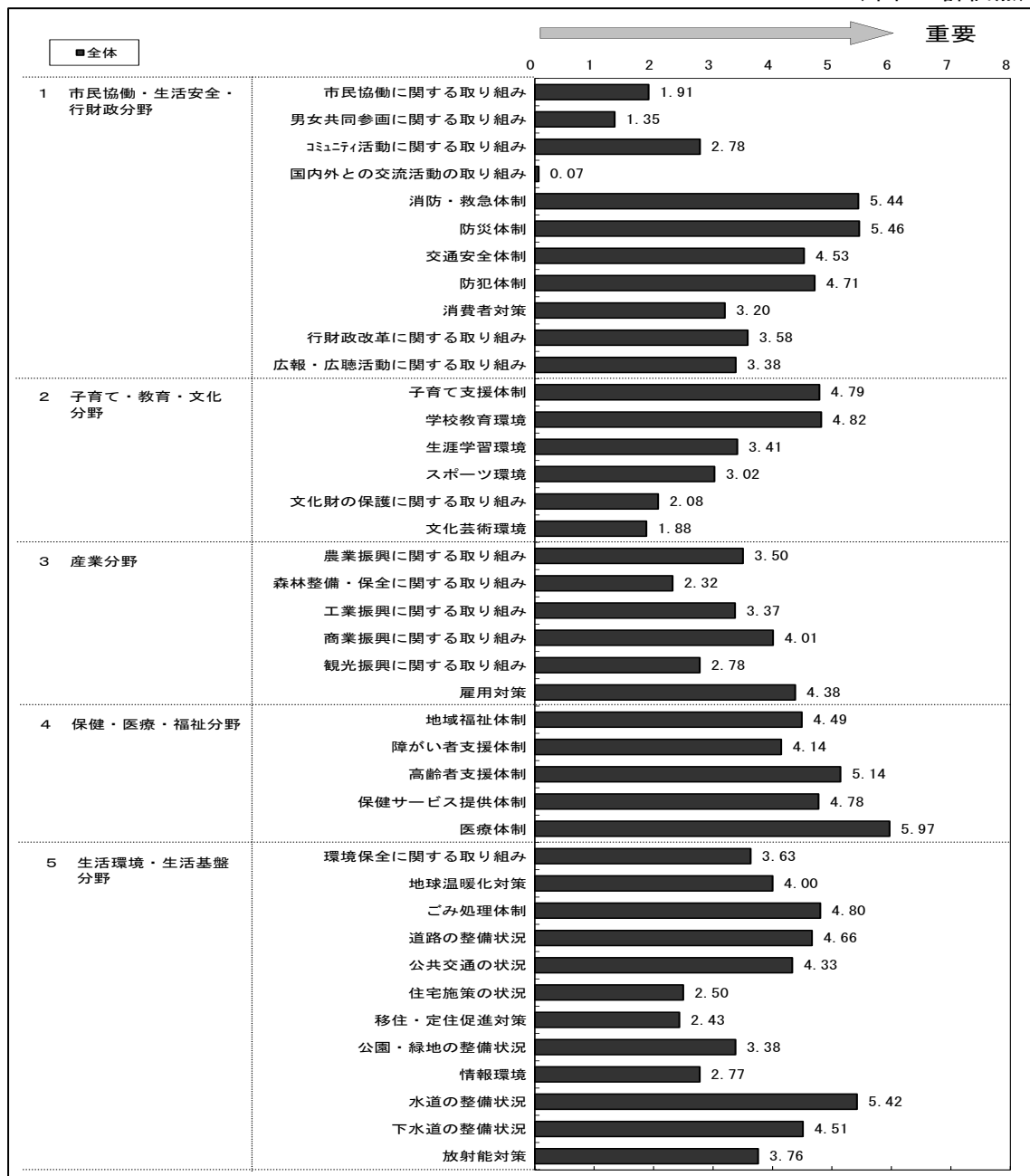
- 重要度が最も高いのは「医療体制」。次いで「防災体制」、「消防・救急体制」、「水道の整備状況」、「高齢者支援体制」の順。

重要度が最も高いのは「医療体制」で、次いで「防災体制」、「消防・救急体制」、「水道の整備状況」、「高齢者支援体制」、「学校教育環境」、「ごみ処理体制」、「子育て支援体制」、「保健サービス提供体制」、「防犯体制」などとなっている。

上位10項目をみると、市民協働・生活安全・行財政分野の項目が3項目（生活安全に関する項目）、保健・医療・福祉分野の項目が3項目、子育て・教育・文化分野の項目が2項目、生活環境・生活基盤分野の項目が2項目（生活環境に関する項目）で、“安全・安心な暮らしの確保”と“保健・医療・福祉の充実”をはじめ、“子育て環境・教育環境の充実”、“きれいで快適な生活環境の整備”が重視されていることがうかがえる。[図表7参照]

図表7 市の各環境に関する重要度（全体）

（単位：評価点）



(3) 今後のまちづくりの特色

- 「安全・安心のまち」と「健康・福祉のまち」が他を大きく引き離して第1・2位を占める。続いて「子育て・教育のまち」、「快適住環境のまち」の順。

「安全・安心のまち」と「健康・福祉のまち」がほぼ同率で他を大きく引き離して第1・2位を占め、「市の各環境に対する重要度」の結果を裏づけるように、“安全・安心な暮らしの確保”と“保健・医療・福祉の充実”が強く望まれていることがうかがえる。

これら以外では、「子育て・教育のまち」、「快適住環境のまち」と続き、“子育て環境・教育環境の充実”や“きれいで快適な生活環境の整備”についても一定程度の市民から支持されている。

中学生アンケートの結果（「安全・安心のまち」、「快適住環境のまち」、「環境保全のまち」、「観光・交流のまち」、「健康・福祉のまち」の順）と比較すると、「安全・安心のまち」が第1位であることに変わりはないが、第2位以下をみると、市民では健康・福祉や子育て・教育、中学生では住環境や環境保全、観光を重視する人が多く、やや違いをみせている。

属性別でみると、ほとんどの属性で市全体と同様に「安全・安心のまち」あるいは「健康・福祉のまち」が第1・2位を占めているが、10・20代と30代では市全体で第3位の「子育て・教育のまち」が第1位、40代でも「子育て・教育のまち」が第2位となっており、これら子育て世代では、“子育て環境・教育環境の充実”が最も重視されていることがうかがえる。[図表8参照]

図表8 今後のまちづくりの特色（全体／複数回答）

